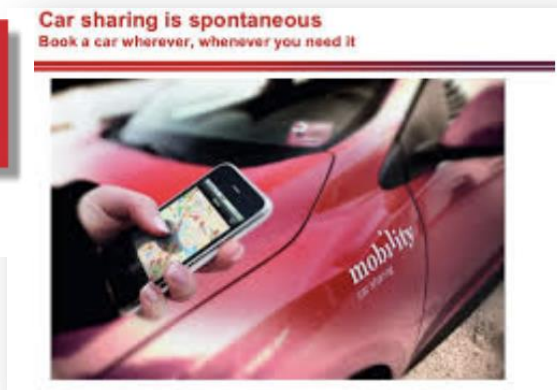


カーシェアリングビジネスの概要

2018年3月 伊藤



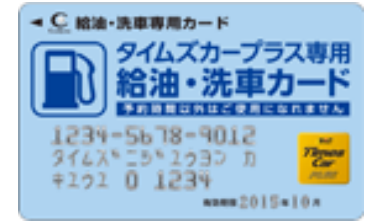
カーシェアリングビジネスについて世界の大手であるCar2go, スイスのMobility, 国内のシェアリングビジネスについて調査した。

- 欧州、北米のドイツを中心としたCar2go(ベンツ傘下のカーシェアリング)、スイスを中心としたMobilityは規模も大きく、ビジネスとしても確立していることが伺える。Car2Go(車両台数:14,000台、会員数300万人)に、これにさらにBMWの(保有台数:6,000台、会員数:100万人)が統合することで調整が進んでいる。欧州では大きなビジネスとなりそう。なおCar2goのEV拠点数は400。
- スイスのMobility(会員数:11,700人、保有:950台。ステーション数:1,500)は従業員も190人擁しており、スイスに定着しており、企業自体も収益はポジティブである。
- 一方で日本はタイムズプラス(保有台数:16,000台、拠点数:8,600)が大きく、他社【オリックス(保有台数:2400台、拠点数:1,450)、カレコ(三井物産100%出身、保有台数:1,500台、拠点数:1,100)】を大きく凌駕している。タイムズプラスはタイムズ24の一部門として経常利益34億円を上げている。



カーシェアリングのオペレーション・・・ユーザーの義務

- カーシェアリング会社は使用後の清掃、修理は行わず、車内の清掃、給油などのメンテナンス作業はドライバーに委ねられている。これはCar2go、Mobilityでも同様である。
- タイムズでは全車禁煙、ペット禁止、無断延長禁止、非会員への車両貸与禁止、灯油運搬禁止で、違反すると会員資格取り消し。
- この義務が守られるかはドライバーのモラルによる。欧州では守られ易いが、日本では若干、困難か？しかし反則金を課せば事実上、運用可能か？（但し喫煙は会員権剥奪のペナリティがある）
- 事故の場合は保険でカバーされており、速やかな連絡が要求されている。ただしパンクなどはユーザー責任
- なおタイムスには以下の特別なサービスがある
 - 車両にGセンサーを設け、異常なGを検知した場合、事故時の緊急連絡、ドライバーの安全確認、対応の仕方をナビに表示。
 - 「給油自動検知」、車内に忘れ物をした時は遠隔操作で「一回限りのドアオープン機能」
- 自動車の故障については定期的に整備をしているとの記述があるのみ。（日本では半年ごとの定期点検が要求されるのでこれはマストで実施されている。この程度で故障が起こらないことは保証できるか？）
- 恐らく、車の故障は起こったら、その時の対応でなんとかするという対応か？そうでないと多くの社員が必要になり、ビジネスは難しい。



各種の自動車の利用の特徴

- ・ 私見に近いですが、自分の意見をまとめてみました。将来どのシステムが主流となるか、あなた自身はどのシステムを選びますか。...

利用の種類	特徴
車の保有	車両の購入、税金、保険、駐車場など多くの費用がかかる。年間50万円以上の費用が必要。 車を保有することの満足感があり、使いたい時に自由に使える。
タクシー	割高な感は否めないが、一部で最近では同乗も可能になった。 また一回1,000円で年間365回利用しても車両の保有よりも安い。また駐車場の心配も不要。
ライドシェア	日本では、法律の関係で運用が進まないが、どこでもいつでも利用できる。普通の人々が運転する車に乗車するのは抵抗があるか？
レンタカー	下記のカーシェアリングと小型車であれば料金は変わらない。拠点が限られる。空港、大きい鉄道駅からの利用は便利
カーシェアリング	とにかく手軽。スマホで予約。拠点も数多くとにかく便利。車両の清掃などは面倒臭い。最近では企業の利用も多い（固定費が削減できる。）駐車場の心配も不要。但しレンタカーに比べ圧倒的に安いとは言えない。